

命と性 助産師語る

高松・山本さん 国際女性デー前に

8日の国際女性デーに合わせた集会在3日、高松市で開かれ、全国で性教育について講演を続ける高松市の助産師・山本文子さん(73)が、命と性の大切さについて語った。連合香川が主催し、「ハラスメントや暴力を見抜く力をつけ、解消する取り組みを進める」としたアピールを採択した。

「相手と自分思うこと」

国際女性デーは、米国で1908年3月8日、女性たちが低賃金などに抗議するストライキを起こしたこ



講演する山本文子さん＝高松市

などをきっかけに、75年に国連が記念日に定めた。

山本さんは「いのち輝くために」と題して講演し、お産の現場で50年以上働いた経験をもとに、性教育について講演した内容を紹介。「女が大きな口を開けて性の話をするな、などとバッシングを受けたこともあった」と振り返ったうえで「性の話をいやらしいと思うか、素晴らしいと思うかで、性教育が変わると思う。相手と自分自身を思うことにもつながる。これからも生き方教育としての性を伝えていきたい」と語った。

連合が昨年まとめた調査によると、インターネットで回答した18〜69歳の1千

人のうち、職場でのハラスメントを「受けた」見聞きした人は56・2%。「女性にのみお茶くみや雑用を

頼む」を経験または見聞きした女性が70・0%いた。連合香川は、7日午後5時半からことぞん瓦町駅西

口で、ハラスメントや暴力の防止を訴える街頭リレートークを開く予定。
(田中志乃)